令和5年度 高尾山学園学校経営報告書

I 学校経営評価の方法

1:教職員による学校経営評価

- ・学習指導、生活指導など教育活動全般に関する評価アンケートを前期後期各1回実施
- ・教職員による学校経営計画の重点目標に対する評価アンケートの実施と考察
- ・保護者及び児童・生徒によるアンケート結果に対する考察

2 保護者及び児童・生徒による学校経営評価

- ・教育活動全般に関する評価アンケートを前期後期各1回実施

3 学校運営協議会委員による学校経営評価

- ・学校運営協議会においてアンケート結果と考察を示し意見をいただく

II 評価アンケート集計結果とその考察の概要

各項目は、引き続き「分からない」という選択肢を設定し5段階で評価。前後期を通じたアンケート考察の概要は、以下の通りである。

1 保護者及び児童・生徒による教育活動全般に関する評価の概要

① 教育方針の周知

- ・肯定的意見が大半である。

② 特色ある学校づくり(少人数指導・居場所づくり・体験活動・SSP・地域との連携)

- ・通常の学校活動に近い形で運営できており肯定的な意見が多い。コミュニケーション力が不足気味の子に対してはきよたき教室併用を推奨している。

③ 小中一貫教育

- ・行事については通常開催としたため日常が戻ってきている。行事に関しては基本的には子供たちも楽しみにしており保護者の関心も高い。特に冬迎祭は毎年開催へ変更し全体的に高評価となった。

④ 人権教育

- ・概ね高い結果であった。SSPも学年ごとに定着してきており教育目標の一つである「気持ちを感じあえる人になろう」についても浸透している。

⑤ 学級経営

- ・概ね落ち着いて学習できると回答している。高尾タイムは完全に定着している。

⑥ 学習指導

- ・概ね良い結果であるが、学年が上がるにつれて意欲的な子が多くなる一方、学年が下がるにつれて学習面での苦手さを感じる子が多い。毎年同じような状況ではあるが年々強くなる傾向がある。

⑦ いじめ防止への対応

・概ね良好であるが、本校の教育目標の一つとして「気持ちを感じあえる人になろう」を設定しており、教職員も教育目標を意識しつつ対応をしている。普段の情報交換の中で気になる子どもは多いが、学校いじめ対策委員会も機能しており重篤ないじめの状態につながるケースはない。ただし前籍校でのことや体験を引きずっているケースは変わらず多い。

⑧ 生活指導(全般・教育相談・安全指導)

・全ての事項で心に寄り添うことを主眼に活動しており、職員にも浸透している。教育相談は登校支援チームとの連携をしているが病院からの紹介など難しいケースや SSW が関わっているケースは年々多くなっている。

⑨ 環境整備

・清掃活動&美化委員会活動は基本的に定着している全ての授業で指導を行い後片付けが出来る児童生徒がほとんどである。

⑩ 情報提供

・継続してメールシステムとHPに加えマチコミを活用して保護者へ通知し、手紙も併用している。さらに連絡が取りにくい保護者へは個別に電話連絡をしている。学校に通えていない子供の家庭には家庭訪問や郵送などで対応している。今後も ICT を活用した連絡を中心として丁寧な対応を継続していきたい。

⑪ 適切な評価

・本校では中学2、3年生でコース別学習を取り入れており、子供たち一人ひとりの心に寄り添いながら指導を行っている。小学部は未学習や発達に偏りのある子も増えており継続して対応を検討していきたい。

☆保護者アンケートの回答率は毎年向上してきたが相変わらず 5 割程度で高止まりしており、活動的な保護者は一部に限られる。毎月転入も定着してきているがSSWの抱えるケースの見学者も年々増えている。対応の難しい子も多く転入に繋がるまでいかず、やまゆり教室で止まってしまうケースも増えている。保護者の期待に応える一方、不安定な子供も増えており、学運協や登校支援室と連携しながらやまゆり教室の支援体制構築が急務と考える。

2 教職員による学校経営計画の重点目標に対する評価の概要

- ① コロナ過から日常が戻っている。全体的に数値は安定しており本校の特性を意識しつつきちんと活動が出来ている。
- ② 面談・学校公開・保護者会への参加率は高止まり傾向であり、一方通行でしか連絡が取れない保護者も一定数いる。
- ③ SSPは常に内容を吟味して実施することが定着している。GIGA端末の利用は日常の風景の一つとなっている。
- ④ 相談体制については登校支援チームとの協力関係が更に向上しており良い連携が出来ている。難しいケースは相変わらず多く心理相談員のケアも必要と感じている。

☆学びの多様化学校の視察が大変多く、特に文部科学省の COCOLO プランが前倒しになっており各自治体からの問い合わせは急増している。文科省の進めるマイスター制度の対応として自治体へのアドバイスや自治体からの研修受け入れなど次年度でも継続していく。職員全体が不登校の拠点校としての自負を持ちつつモデル校として研鑽に努めていきたい。

Ⅲ 学校運営協議会委員による学校経営評価

アンケート結果と考察に関する意見として特に大きな課題は指摘されておらず、改善結果を踏まえ概ね高い評価を頂いた。オンラインを活用しての学運協も定着できた。

- ・自信に満ちた授業をしていると感じる。先生方の努力に敬意を表したい。
- ・不登校特例校のモデル校にふさわしいと感じている。
- ・地域との連携もうまくやれている。
- ・校長の人事については次を誰にするか難しいと感じている。

などのコメントや助言をいただいた。

Ⅳ 令和 6 年度の教育活動への反映

- ① 学運協委員は継続の年であり、男女バランスも 50:50 としてより学識経験者も多くし多彩な交流や助言をいただける構成である。特に学芸大学との関係作りも順調に進んでおり学びの多様化学校としての方向性についても意見をいただいていく。学運協主催の「放課後カフェ」も成功しており継続予定である。
- ② 「きよたき教室」は利用者が着実に増加している。教員の入れ替わりあるが指導体制を更に充実させたい。
- ③ 転入学については研究主事と連携し校内体制も強化して不登校改善に取り組む。
- ④ キャリア教育の観点からも外部人材を取り入れ勤労の意義を子供たちに伝える場を継続する。
- ⑤ モデル校として対面を中心としたコミュニケーション力向上に力を入れていく。
- ⑥ 教職員の資質向上を図るため、引き続き研修の計画的な実施を図り、児童・生徒理解と指導力の一層の向上を目指す。特に特例校との交流を希望する学校からの研修は積極的に取り入れたい。
- ⑦ 近隣大学・高校・地域住民との交流を通じて、児童生徒・保護者・教職員との関わりも深めていく。
- ⑧ 文部科学省初等中等教育局「学びの多様化学校マイスター」業務も継続し、各自治体のサポートなども視野に入れつつ学びの多様化学校に関する情報を発信したい。
- ⑨ 学びの多様化学校先進事例として外部からの研修受け入れを積極的に行う。
- ⑩ 管理職が 1 名増となるので管理職としてのフォーメーションを強固なものにし学校を運営していきたい。

以上